一　般　質　問

令和２年１２月９・１０日
第４回広尾町議会定例会

通告順序	議席番号	質　問　者
1	1	松　田　健　司
2	5	北　藤　利　通
3	１０	小　田　雅　二
4	4	前　崎　　茂
5	１１	旗　手　恵　子
6	8	山　谷　照　夫
7	3	萬亀山　ちず子

通告順序１　質問者：松 田　健 司

１．町内飲食店等への感染症予防対策への支援について

　コロナウイルス感染拡大の第３波により、国民全員の行動変容が求められている中、町内飲食店の収益の柱である、年末、年始のイベントも自粛傾向が続き、経営がますます厳しくなることが予想される。

　町として、経済的な支援にとどまらず、積極的な取り組みが必要と思われるが、現在、取り組んでいる支援や取り組み、また、これからの政策で考えている事について、町長の考えを伺う。

通告順序２　質問者：北 籐　利 通

１．広尾サンタランドの魅力向上について

昭和５９年に国内唯一の「サンタランド」として、本家ノルウェーから認定され、今年で３６年となり、様々な事業を展開してきているが、現状における課題を踏まえた今後の事業の考え方及び魅力向上策について、町長に伺う。

２．企業誘致による雇用増加策について

地方創生や昨今のコロナ禍など社会情勢を踏まえた、雇用機会の増加につなげる企業誘致の考え方、現状及び今後の具体的な取り組みについて、町長に伺う。

通告順序３　質問者：小 田　雅　二

１．町の高齢者施設での「オンライン面会」サービスの運用について

コロナ禍の影響で会議等がオンライン化されていく中、入所者やその家族が利用できる「オンライン面会」も一般的になりつつある。

町としても、この運用についての準備や開始について、どの様なスケジュールとなっているのか。

２．空き家・空き地対策について

更地であることと、住宅等が建っていることとでは、固定資産税について、大きな差異が生じ、このため、不安かつ、老朽化した危険な建物が取り壊されない原因の一つとなっている。

今後、ますます空き家・空き地が増え、町全体がゴーストタウン化していく中で、行政としてどの様に対処していくのか。

町として、不要あるいは、利用目的のない私有地の引き受けや管理についても検討せざるを得ない時期に来ていると思うが、どのように考えるか。

通告順序４　質問者：前 崎　　茂

１．人工透析治療の施設整備を早期に

本町の人工透析患者数は、この１０年間で１６人から１９人で推移しているが、昨年度から２４、２５人と急増している。

先の定例会で、人工透析患者の通院体制の支援について質したが、１０月からタクシーの共同利用が可能となり喜ばれているところである。

一方で、自家用車等で通院している患者も透析に要する標準時間は４時間程であるが、長い方は５時間を超える時もあり、更に通院時間や待ち時間を考慮すると大変疲れるとのことである。

人工透析治療を受けている患者の皆さんからも、広尾町国保病院で透析ができるよう早急に施設整備をして欲しいとの声が寄せられている。

安心して患者の皆さんが、広尾町で人工透析できるよう具現化すべきではないか。

また、本町の人工透析患者が増加傾向にあるが、その要因と対策はどのように考えているか。

２．新型コロナウイルス感染拡大による商店等中小企業支援体制は

新型コロナウイルス感染拡大が１１月以降急拡大し、全国では、連日２，０００人を超え、「第３波」の感染拡大となっている。

とりわけ、北海道、首都圏、関西圏の拡大が顕著になっており、十勝でも１１月は、陽性患者が２００人を超えている。

このような状況の下で、東京商工リサーチの調査で、忘年会、新年会を中止にする会社や団体は、全国で８７．９％、北海道では、９３％になるとしている。

本町でも、過般の臨時議会等を経て、地域振興プレミアム付商品券発行事業などを実施してきたが、感染拡大が収束していない今日、明年に向けて、改めて、地域振興プレミアム付商品券発行事業や中小企業緊急支援給付金事業など第２次支援の実施について、どのように考えているか。

通告順序５　質問者：旗 手　恵 子

１．介護保険２０年第８期に向けての対策について

本町は、介護保険料を第５期（平成２４年）から、月額４，４００円を維持している。

要介護認定率（令和２年３月末現在）も１５．１％と管内最低となっている。

介護サービスを利用している人の中でも低年金の人は、利用回数を減らしたり、調整をしながら利用している実態があるなど、負担は限界にきているのではないか。また、実態調査は行っているのだろうか。介護従事者の処遇改善が必要ではないか。

また、要支援者等に限定されている介護予防、日常生活支援総合事業の対象者について、２０２１年度から市町村の判断により、要介護者についても総合事業の対象にすることが可能となったが、広尾町はどのような形で運用するのか。これが進むと、なし崩し的に要介護も総合事業になってしまう危険があるのではないか。

国は、２０２２年、７５歳以上の医療費窓口負担を引き上げることも検討しており、病床の削減も緩めておらず「自助」の押し付けを強める動きもある。

町民の立場で、国に対し発信を強めるべきではないか。

通告順序６　質問者：山 谷　照 夫

１．ＪＲバスの路線維持は

令和２年度「町政執行方針」の中で、来年度以降のバス路線維持について方針を述べている。

ＪＲバスは、地域住民にとっての「生活路線」であり、沿線高齢者にとっては、貴重な移動手段でもある。更に、えりも方面からの広尾高校への「通学路線」としても大きな役割を担っている。

また、えりも「国定公園」から「国立公園」化の動きもあり、「観光路線」として脚光を浴びる期待がされ、ＪＲバスの必要性が増して来ると感じる。

その中で、利用者減少に伴う経費負担が増大する現況をどのように捉え、維持するための方策を町長として考えているのかを問う。

① 事業費が計画されている「令和３年度から令和７年度」５年間の（広尾・庶野間）ＪＲバスの維持、運行をどのように考えているのか。

② 事業費が計画されていない「令和８年度以降」については、どのような考えなのか。

③ 沿線の「フンベ、美幌、音調津」地区住民の意見集約はなされているか。

通告順序７　質問者：萬亀山 ちず子

１．景観に配慮したまちづくりを

広尾町内には、過去に設置された老朽化が進んでいる看板や道路標識などが多く存在している。

第６次の「広尾町まちづくり推進総合計画」においても、安全なまちを目指すとしているが、町の景観を損なうような看板・標識や危険を感じる空き店舗や空き家なども目立つようになっている。

国道３３６号、帯広に向かう野塚市街のカーブ付近に、回転灯がつけられている交通安全の啓発看板が設置されているが、長年の風雨にさらされ、ドライバーには読み取れない状態となっている。当時は、帯広に向かう、或いは広尾に向かう車両には、効果的なものだったと考えられる。元々営林署があった場所で、誰がいつ頃設置したのかもわからないが、根本も錆が発生し、いつ倒れてもおかしくない危険な状態だと感じている。

過去にその場所は、冬期間、アイスバーン状態の路面を猛スピードで走行していた車両が、カーブを曲がり切れず民家に衝突し、二人が死亡する事故が発生した。また、そこは車による事故が頻繁に多発している場所であることから、交通安全への思いから設置されたものではないかと思っている。現在も付近の住民の方々は不安を感じていると聞いている。

町内には、多くの老朽化した看板や標識、危険な空き家や使用されていない公共施設などがある。町の景観を損なうようなこれらのものを、撤去するなり取り壊すことにより、広尾町に来て頂いた方々に、「きれいな町だね。」と言って頂けるような「まちづくり」が必要であると思うが、町長の考えは。